

椰子の実

島崎藤村

名も知らぬ遠き島より
流れ寄る椰子の実一つ

故郷の岸を離れて
汝はそも波に幾月

旧の樹は生ひや茂れる
枝はなほ影をやなせる

われもまた渚を枕

孤身の浮寝の旅ぞ

実をとりて胸にあつれば

新なり流離の憂

海の日沈むを見れば
激り落つ異郷の涙

思ひやる八重の潮々
いづれの日にか国に帰らん

〈出典 『日本の詩歌1 島崎藤村』 (中央公論社、一九七四年)〉

【著者】 島崎藤村 (しまざきとうそん)

一八七二 (明治五) 年—一九四三 (昭和一八) 年

詩人。作家。岐阜県の生まれ。

【著書】 『若菜集』 『破戒』 『夜明け前』 など